

科目ナンバリング		U-LAS23 10001 SJ48									
授業科目名 <英訳>	中国語 I A (文法) C1101,C1102,C1103,C1104,C1105,C1106,C1107,C1108,C1109,C1110,C1111,C1112,C1113,C1114,C1115,C1116,C1117,C1118,C1119,C1120,C1121,C1122,C1123,C1124,C1125,C1126,C1127 Elementary Chinese A					担当者所属 職名・氏名	国際高等教育院 非常勤講師 南 真理 准教授 劉 愛群 非常勤講師 山田 晃三 非常勤講師 黄 明月 非常勤講師 山本 浩史 非常勤講師 鈴木 博之 非常勤講師 大賀 晶子 非常勤講師 加部 勇一郎 非常勤講師 中原 理恵 非常勤講師 上原 尉暢 非常勤講師 前田 尚香 人文科学研究所 教授 池田 巧 非常勤講師 林 淑美 非常勤講師 小出 敦 文学研究科 教授 緑川 英樹 文学研究科 准教授 成田 健太郎 非常勤講師 根岸 美聡				
群	外国語科目群			分野(分類)					使用言語	日本語	
旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習(外国語)(対面授業科目)				
開講年度・ 開講期	2025・前期		曜時限	月2/月3/月4/火3/火5/ 水3/水4/木1/木2/木3/ 木4/金2/金3/金4/金5		配当学年	全回生	対象学生	全学向		
[授業の概要・目的]											
本授業は、初めて中国語を学ぶ学生を対象にしたものであり、簡単なスキットと初歩的な文法事項を段階的に学びながら、読む、書く、聞く、話すといった能力を身につけてゆく。この授業では特に文法的知識の習得を目指し、演習の授業と連携したかたちで、授業をすすめる。											
[到達目標]											
中国語の発音体系を身につけた上で、中国語の基礎的な文法事項を理解し、中国語による表現の基礎を身につける。北京などを舞台としたスキットを題材としつつ、広く中国の文化に対する理解を深める。											
[授業計画と内容]											
この講義はフィードバック(方法は別途連絡する)を含む全15回で行う。 最初の3回の授業では、テキストの「発音編」に基づきながら、中国語の表音システムであるピンイン(ローマ字綴り)の学習を通じて中国語の発音体系のあらましを習得する。 その後、テキストの「本文編」に基づきながら、スキットと文法事項ごとの例文の学習を通して、正確な文法的知識、基本的な表現力の習得を目指す。前期は発音編と本文編第九課までを学びながら、特に、文法体系の枠組みを理解することをめざす。原則として1回の授業で本文編の1課分を学習する。なお、Web上にも教材の音声を置き、履修生には24時間自由なアクセスを認め、その自学自習を支援する。 本授業は、所定の演習の授業と連携して行われるため、かならずセットで履修しなければならず、この授業だけの履修は原則として認められない。各回において学ぶ内容(発音事項・文法事項)は次のようである。											

- 第1回 発音編「中国語の音節構造」「声調」「韻母 その一 単母音」「声母 その一」
- 第2回 発音編「韻母 その二 複合母音」「声母 その二」「韻母 その三 鼻音を伴う母音」「第3声の発音」
- 第3回 発音編「簡単なフレーズ」「声調変化」「軽声」「儿化」
- 第4回 第一課、「人称代詞」「動詞述語文」
- 第5回 第二課、「連体修飾1 “名詞／代名詞＋的＋名詞”」「判断詞“是”“不是”」「副詞“都”“也”」
- 第6回 第三課、「形容詞述語文」「指示代詞」「動詞“在”」
- 第7回 第四課、「疑問代詞“shen me”」「助動詞“想”など」「副詞“就職”」「動詞“有”」「方位詞」
- 第8回 第五課、「連動文」「時間詞1 “今天”など」「文末の語気助詞“ma”“ba”“ne”」「連体修飾2 “形容詞＋的＋名詞”」
- 第9回 第六課、「選択疑問文」「比較表現」「疑問代詞“weishenme”“zenme”」
- 第10回 第七課、「連体修飾3 “動詞句＋的＋名詞”」「進行表現」「“喜歡”＋動詞／名詞」
- 第11回 第八課（前半）、「主述構造を目的語とする動詞」「“对…感興趣”」
- 第12回 第八課（後半）、「副詞“一直”」「二重目的語」
- 第13回 第九課（前半）、「時間詞2 年・月・日・曜日・時刻」「さまざまな“了”」
- 第14回 第九課（後半）、「アスペクト助詞“過”」「動詞＋“一下”」
- 《期末テスト》
- 第15回 フィードバック

【履修要件】

「全学共通科目履修の手引き」を参照してください。

【成績評価の方法・観点】

原則として定期試験80%、平常点20%で評価する。詳細については授業の最初の時間に説明する。基本的な語彙・文法事項の理解と、それをういた表現能力の修得が評価の対象となる。

【教科書】

道坂昭廣 他『中国語の世界—北京・2025—』（大地社）

【参考書等】

（参考書）

詳細な学習方法や、辞書及び参考書については、最初の授業や授業の中で紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

Web上に教材や練習問題の音声を置く。24時間自由にアクセスできるので、必ず授業の前に、音声を聞くとともに文法事項について目を通しておくこと。また、練習問題が宿題となることもある。必ず復習とともに練習問題等の課題を行うこと。

【その他（オフィスアワー等）】

最初の授業において紹介する。

【主要授業科目（学部・学科名）】